

編集後記

澄み切った冬の夜空に輝く無数の星を見ていると我々は宇宙の片隅に生きていることをふと感じることがある。ひときわ目立って見えるオリオン座の恒星ベテルギウスは地球から約 642 光年の距離がある。光は秒速約 30 万キロメートル、つまり 1 秒間に地球を 7 周半するほどの速さだが、642 光年とはその光でも地球に届くまで 642 年かかる距離である。今夜、夜空で目にするベテルギウスは 642 年前、日本が室町時代であった時の姿である。太陽系が属する銀河系の外にあるアンドロメダ銀河は肉眼で見える最も遠い天体であり、地球から約 250 万光年の距離にある。つまり、今夜、夜空にアンドロメダ銀河を見つけたら、それは今から 250 万年前、地球にようやく人類の祖先である原人が出現した頃の姿を見ているのである。大宇宙は我々の想像が及ばぬ程にはるかに大きくその半径は約 460 億光年といわれている。

人生は山あり谷ありいろいろなことがある。しかし、そんな人生も大宇宙のスケールから見ればほんの一瞬なのである。その一瞬の中で如何に生きていくのか。平昌で行われている冬季オリンピックでは、多くの感動の一瞬を観戦することができた。その一瞬のために何年も何十年もの努力を重ねた選手たちの戦いは、例えメダルが取れなくても感動できる場面がたくさんあった。人生もまた同じではないか。我々は、ほんの一瞬の中を生きているのである。その一瞬の中で、暗中模索しつつも感動できる場面をぜひ実現したいものである。

山村陸夫先生には、和光大学に赴任した後、いろいろとご指導をいただいた。心より感謝申し上げます。どうか安らかにお眠りください。

今号は、山村陸夫先生の追悼号となりました。ご多忙の中、先生方からは、学術論文、追悼文など多くの玉稿をお寄せいただきました。深く感謝申し上げます。次号以降もご研究の成果をぜひご投稿ください。楽しみにお待ちしております。

(2018 年 2 月 小林 稔 記)

和光経済 第 50 卷 第 2 号

2018 年 2 月 23 日 印刷

2018 年 2 月 28 日 発行

発 行 者 井 出 健 二 郎

制 作 八 千 代 出 版

〒 101-0061 東京都千代田区三崎町 2-2-13

発 行 所 和光大学社会経済研究所

〒 195-8585 東京都町田市金井町 2160
